

卵子を選ぶ

——卵子提供にみる選択原理と近代家族規範——

静岡大学 白井千晶

【1. 目的】

異性カップルが不妊であるときに、どちらかの（あるいは二人の）配偶子を他に置き換えるために配偶子を選ぶということは、かつてない経験だ。では、どんな配偶子を選ぶのか、その理由は何か。これまでの配偶子提供に関する研究では、「デザイナーベビー」が象徴的であるが、人種や「遺伝的素質」を指標にした配偶子の市場化によって、配偶子が「階層化」していると議論されてきた（例えば Fox2009）。しかし、提供で子どもを持ちたい人は、どのような基準で提供者（ないし配偶子）を決めるのか、実証的にはほとんど探究されていない。階層の上の方とされる属性の提供者を選ぶだろうか？どのような基準で提供者を選択するか、その原理を分析することによって、被提供者はどのような子どもを「デザイン」しようとしているか、どのような親子関係を構築しようとしているかが見えてくる。

【2. 方法】

本報告では、報告者のデータを元に、日本人女性が、自らの卵子ではなく、他者からの卵子の提供を受けて自ら妊娠、出産しようとするときに、なぜ、何を選んでいるか分析する。本報告では筆者が2011年から2019年までに卵子提供で母になった人に実施したインタビューのうち、卵子提供者を決定した女性44人のデータを分析する。なお、本調査は静岡大学倫理審査を受審している（14-12）。

【3. 結果】

インタビュー協力者がある特定の卵子提供者をどのように決めたと語ったテキストデータから、選好の要素を抽出し、類似、非類似にクラスタリングしたところ、7つの要素が得られた。1. コスト（費用、渡航先の距離や回数等）、2. 成功可能性（提供者の過去の採卵数等の実績、医療施設の誘発方法や医療水準等）、3. 遺伝の「質」（提供者やその血縁者の病歴、提供者の学歴等）、4. 提供者と被提供者の類似性、同質性（人種、血液型、容貌、体型等）、5. 出自を知れること（情報が得られるか、将来的に交流の可能性があるか等）、6. 情緒的つながり（提供者への共感、好感、親しみ等）、7. 選択可能性（提供者の選択可能性、不可能性）、である。

【4. 結論】

被提供者はこれらの要素の優先順位をつけながら意思決定をおこなっている。それは、配偶子選択が、合理的な市場原理に基づいた「よりよい属性のベビーをデザインする」ことではなく、近代家族、親族の原理に基づいていることを示している。

本研究は JSPS 科研費 JP12345678 の助成を受けたものです。

参考文献

Shirai, Chiaki, 2019(forthcoming), Genetic Ties and Affinity: Longitudinal Interviews on Two Mother's Experiences of Egg Donation in Japan, EAST

白井千晶 2017 「卵子の提供を受けて母親になるということー高齢妊娠女性への聞き取り調査から」 学術の動向, 22(8)